

新たな養豚農業の振興に関する基本方針(案)のポイント

1 養豚農業の振興の意義及び基本的な方向に関する事項

○養豚農業の課題	○基本的な対応方向
・生産コストの低減等による生産性・収益性の向上	・効率的な生産システムの導入や各種経営診断の利用等による経営の安定
・人材の確保・作業の省力化	・飼料要求率改善、国内由来飼料の利用による飼料自給率の向上
・臭気や排水基準への的確な対応	・脱臭装置等の活用による排せつ物処理の高度化
・水際対策・農場バイオセキュリティの強化	・日々の衛生管理の徹底、水際対策を徹底することによる豚の伝染性疾病の侵入・まん延の防止
	・ブランド化による販売の強化

2 養豚農家の経営の安定

- グループ生産システムやスマート機器の導入による省力化・生産性向上
- 特定の品種や国内由来飼料の利用、オレイン酸等によるブランド化及び高付加価値化
- 生産活動の持続性を確保する取組や農場HACCPの取組の普及・定着
- 優良な種豚の改良・活用
- 経営診断(ベンチマーキング)等を活用した経営・飼養管理能力の向上
- 休日の取りやすい環境整備及び外国人材の活用のためのサポート体制の充実
- 経営安定対策の適切かつ確実な実施
- 災害への備え(BCP策定や飼料・水等の確保)の充実

3 国内由来飼料の利用の増進

- 耕畜連携による国産飼料と堆肥の利用の推進
- 国内由来飼料の生産者と養豚農家の需給マッチング
- 国内由来飼料の生産の促進と円滑な利用のための機械・施設の整備

4 豚の飼養衛生管理の高度化

- オールイン・オールアウト方式やマルチサイト方式の導入による疾病発生リスクの低減
- 農場分割管理、繁殖・肥育の分業化、農場HACCPの導入による衛生管理の更なる充実・強化
- アニマルウェルフェアの理解醸成
- 抗菌薬の慎重使用等による抗菌薬の使用量の削減
- 豚舎清掃ロボット等の高度な飼養管理技術の導入
- 各種技術を活用した臭気・污水対策
- J-クレジット制度活用等による温室効果ガス排出削減
- 堆肥のペレット化等による広域流通

5 豚の伝染性疾病の予防及び豚の伝染性疾病が養豚農家の経営に及ぼす影響の緩和

- 専門家による研究で得られた知見等を基に、飼養衛生管理の不断の点検・向上を推進
- 水際対策、野生動物対策及び発生時の迅速な防疫体制の強化による悪性伝染病の発生予防・まん延防止
- 農場の分割管理による疾病発生時の影響緩和
- 豚の疾病に対する検査体制の整備
- 獣医療提供体制の整備

6 安全で安心して消費することができる豚肉の生産の促進及び消費の拡大

- エコフィードの製造基準の遵守及び抗菌薬を含む動物用医薬品の適正な管理・使用
- 消費者の需要の変化・多様化に対応した豚肉の生産及び国産豚肉を使用した新商品の開発
- 輸出拡大のためのプロモーション、食肉処理施設の整備・認定、輸出解禁協議を通じた輸出先の更なる多様化
- 養豚農業に対する消費者の理解醸成
- 関係者間でのチェックオフに対する理解醸成

7 その他養豚農業の振興に関し必要な事項

- 豚肉の流通の合理化に資する食肉処理施設の再編・合理化や省力化機械の導入
- 産地処理、生体の長距離輸送に係るアニマルウェルフェアに配慮した輸送、トラックドライバーの負担軽減、飼料輸送の合理化に資する取組の推進による物流問題への対応

養豚農業の健全な発展